

授業科目 臨床歯科医学

【担当教員名】 今井 信行		対象学年	2	対象学科	言語
		開講時期	前期 a	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	○	
【概要・一般目標：G10】 <概要> 口腔・歯・歯周組織の発生・発育、形態と機能、およびそこに発生する疾患の病態・診断・治療・予後・予防・鑑別診断などについて学習する。 小児・成人発声発語障害学、摂食・嚥下障害学の講義との関連が深い。 <一般目標：G10> 発語器官として特に歯を中心とした口腔の形態、機能、疾病について学習する。					
【学習目標】 <行動目標：SB0> 1. 口腔の臨床解剖について説明できる。 2. 口腔を構成する諸器官の発生・発育について説明できる。 3. 口腔の機能について説明できる。 4. 歯を中心とした疾病の診断、治療、予防について概要を説明できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SB0 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	歯科・口腔外科学総論	対象、歴史、現代の医療、言語聴覚士の役割		1	講義
2	諸器官の臨床解剖 1	顔面、口腔軟組織、顎の臨床解剖		1	講義
3	諸器官の臨床解剖 2	顎関節、歯、歯周組織の臨床解剖		1	講義
4	諸器官の発生と発育	口腔・顎・顔面の発生と発育、歯の発生と萌出		2	講義
5	諸器官の機能	言語機能、咀嚼機能、嚥下機能		3	講義
6	診査法	口腔診査用器械器具、消毒・滅菌・感染予防、診査法		4	講義
7	口腔衛生	口腔清掃法と口腔清掃指導		4	講義
8	歯と歯周組織の疾患	歯の疾患、歯周組織の疾患		4	講義
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学	夏目長門編	医学書院	2006・4,200円＋税・講義での使用頻度は低い が国試出題基準に準拠した構成で自己学習の ために教科書として指定する。
参考書		言語聴覚士のための臨床歯科 医学・口腔外科学	道 健一編	医歯薬出版	2000・4,000円＋税
		最新口腔外科学：第4版	榎本昭二他編	医歯薬出版	1999・21,000円＋税
その他の資料		毎回プリントを配布する			
【評価方法】 成績の評価は出席状況と期末試験の結果から 評価する			【履修上の留意点】 毎回次回講義する部分のプリントを前もって配布するので予習を十分に行ってくる こと		